

2023年度 ECOMO

交通バリアフリー研究・活動助成

申込受付のお知らせ



募集期間 2022年11月1日(火)～11月30日(水) ※当日消印有効

助成期間 2023年4月1日(土)～2024年3月15日(金) ※当日消印有効

※助成対象及び助成予定額の決定は、財団内に設置した審査委員会により選定し、2023年3月頃通知する予定です。また、助成金額の確定は、2024年3月下旬頃通知する予定です。

優先的重點課題

研究・活動助成の対象を踏まえて、2023年度の優先的重點課題テーマは以下の通りです。詳細は裏面をご覧ください。

高齢者及び障害者等の
移動等円滑化

大規模イベントにおける
移動と交通

災害避難時、復興時及び備え
(非常時も含む)

共生社会構築に向けて

若手研究者部門

助成金 50万円以内

- 2023年4月1日時点で35歳以下の方。共同研究者も同様。
- 2023年4月1日より助成事業完了時まで、国内の大学院、大学、高等専門学校及びこれらに附属する機関の研究者、大学院生、研究生、または研究機関、企業、NPO等の研究者等とします。

一般部門

助成金 100万円以内

- 2023年4月1日より助成事業完了時まで、国内の大学院、大学、高等専門学校及びこれらに附属する機関の研究者、大学院生、研究生、または研究機関、企業、NPO等の研究者等とします。

研究・活動部門

助成金 原則として 20万円以内

- 個人や企業、NPO等とします。

申請方法 財団のホームページより申請書をダウンロードの上で、ご申請ください。ご申請前には、「助成のしおり」を必ずご確認ください。



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

ECOMO交通
バリアフリー研究・活動
助成のホームページ
[申請書もこちらから
ダウンロードしていただけます。](#)



助成対象

交通バリアフリーに関わる先進的な調査研究や基礎研究を含む技術の研究開発とし、以下のいずれかに該当する内容とします。

本助成に関する交通バリアフリーを表すキーワードは以下の通りです。

- ▶ 公共交通機関における移動のバリアフリー化に関するもの
- ▶ 公共交通機関に関連する建築物や道路等のバリアフリー化に関するもの
- ▶ 公共交通機関における移動のバリアフリーに関する教育や人材育成等に関するもの

優先的 重点課題

研究・活動助成の対象を踏まえて、
2023年度の優先的重點課題テーマは以下の通りです。

▶ 高齢者及び障害者等の移動等円滑化

- 無人駅での移動円滑化を確保するための調査研究及び研究開発
- 目的地までのほんの少しの移動(ラストワンマイル)を解消するモビリティ確保のための調査研究及び研究開発
- 公共交通機関において視覚及び聴覚に障害のある人とのコミュニケーションを支援するための調査研究及び研究開発

▶ 大規模イベントにおける移動と交通

- 障害のある人、高齢者、子ども連れ等の移動制約者を含め多くの人々の移動や交通における、
ハード・ソフト両面からオリンピック・パラリンピックのレガシー構築や大阪・関西万博に向けて検討も含む調査研究

▶ 災害避難時、復興時及び備え(非常時も含む)

- 障害のある人、高齢者、子ども連れ等の移動制約者に対する、大規模災害や震災等への備え(事前学習、訓練、連絡等)や避難時(移動手段や、
連絡(コミュニケーション)、避難方法、避難場所等)、復興時(仮設住宅、連絡等)に関する安心、安全性を確保するための調査研究及び研究開発

▶ 共生社会構築に向けて

- 共生社会構築のための啓発や教育活動等に関する調査研究及び研究開発
- 障害者差別解消法と移動と交通の仮題に関する調査研究
- 新しい技術を用いたバリアフリーマップの作成、バリアフリー点検まちあるき等の取組

過去の助成実績(2018年度以降)

■若手研究者部門

- ▶ 2020年度
 - ・子供連れの移動時の安全性と利便性の両立をめざした子供と乗る自転車
 - ・岩手県陸前高田市におけるラストマイル輸送に関する研究
- ▶ 2021年度
 - ・SfMを用いた高精度3次元復元に基づく歩行空間のバリア表示と活用
- ▶ 2022年度
 - ・障害者等用駐車区画・バリアフリートイレの利用状況把握システムの開発
 - ・移動円滑化に資する鉄道駅の簡易委託化に関する研究

■一般部門

- ▶ 2018年度
 - ・聴覚失認のある高次脳機能障がい者に適した災害チャイム
 - ・バリアフリー基本構想策定における行政機関の実務上の課題からみた今後の展開方策に関する研究
- ▶ 2019年度
 - ・高触知性・描画機能付き触知図作成システムの開発
 - ・多感覚統合を利用した聴覚失認者にも分かりやすい緊急災害情報の放送法
 - ・当事者主体のインクルーシブなコミュニティ減災モデルの構築
 - ・障がい児への自転車教育プログラムの開発とその環境整備効果に関する研究
 - ・優先的重點課題:ICTを活用した地域防災システムの在り方に関する基礎的研究
 - ・マーケティング手法を用いたエスカレーターの安全利用啓発の調査・研究
 - ・長期交通障害発生時の公共交通サービスのバリアフリー対応に関する研究～平成30年7月豪雨災害の実践と経験から～
- ▶ 2020年度
 - ・聴覚失認者にとっての緊急災害時のチャイムの意義
 - ・過疎地域における高齢者のモビリティ施策としてのタクシー補助制度のありかた
 - ・聴覚障害者の移動時の快適性に関する当事者研究～機内エンターテインメントへの字幕付与に着目して～
 - ・利用者視点による交通バリアフリー接遇の簡易評価尺度の開発
 - ・多様なニーズに応える先進型障害者用駐車場の開発に向けた調査研究
 - ・視覚障害者の道路横断時の方向定位を支援するツールに関する実証研究
- ▶ 2021年度
 - ・公共交通を支える担い手確保に関する研究
 - ・地域公共交通サービスにおける健康に関するクロスセクター効果の算出
 - ・交通弱者のためのAR技術を用いた大型複合施設のナビゲーションアプリの開発と検証
 - ・パーソナル・モビリティ・ビークルを用いた高齢買い物弱者の移動支援に関する研究
 - ・地方都市におけるタクシー＆バスライド導入による高齢者の活動拡大への効果と導入課題に関する研究
 - ・公共交通機関における、健常者による配慮が必要な人のニーズへの「気づき」と「気づかい」を促進するメッセージの表示方法に関する予備的研究
 - ・MaaSおよび新モビリティサービス時代の交通システムの災害発生後バリアフリー交通における活用可能性に関する研究
 - ・復興事業における標高の変化を考慮した移動制約者の津波避難に関する研究

▶ 2022年度

- ・高齢介護者における身体機能および車いす操作の介助能力からみた道路のバリアフリー化に関する研究
- ・公助と自助の隙間を埋めるラストワンマイル交通サービスのしくみづくり
- ・地域の多様性と災害復興の経験を活かした交通バリアフリー教育の実践研究
- ・ナビゲーションタグの普及展開に向けた検討と課題の整理
- ・子育て当事者が求める幼児用座席を設けた自転車の安全な駐輪場に関する研究～駐輪場ガイドライン作成に向けて～
- ・誰もいない場所での目の見えない人・見えにくい人に知る移動支援

■研究・活動部門

- ▶ 2018年度
 - ・寺社仏閣が多い観光地における電動車いすでの観光時のバリアフリーについての研究
 - ・公共交通機関における視覚障害者誘導用ブロックの敷設実態と課題 一歩行訓練士の視点から一
 - ・相生市内全小学校におけるバスのバリアフリー教育
 - ・事業者連携による福祉車両を活用したバリアフリー観光移送に関する研究
 - ・障がい者が主役の映画を通して、心のバリアフリーを広める
 - ・認知症になっても交通機関を利用し外出を続けられる社会を目指す
- ▶ 2019年度
 - ・2.5Dプリンターを使った視覚障害者・児用 触地図の効果について
 - ・周囲の床面と視覚障害者誘導用ブロックの触覚的コントラストに関する研究一歩行訓練士の立場から一
 - ・病院の通院送迎バスの共同運行と患者の通院負担軽減に関する研究
 - ・多様な車いす使用者の「JPN・TAXI」への親しみ・利活用の気付き・試乗会
 - ・路線バス内における障がい者・高齢者避難訓練の実施
- ▶ 2020年度
 - ・四肢まひ者の公共交通機関利用を支援するための調査研究
 - ・どこでも・だれでも・気軽にサポートプロジェクトcont.
 - ・オリ&パラ開催によるバリアフリー化効果の評価の試み
 - ・通院送迎バスの共同運行による患者の通院負担軽減に向けた取り組み
 - ・障害者アート作品の鑑賞による障害者支援の啓発効果に関する研究
- ▶ 2021年度
 - ・視覚障害者のホーム転落をなくすための啓発活動。
 - ・障害当事者による、空港利用(二次交通を含む)促進に向けた調査・研究活動一飛行機を身近な乗り物に一
 - ・携帯型触知案内図の研究開発とその評価
- ▶ 2022年度
 - ・視覚障害者のホーム転落をなくすための啓発活動
 - ・暑熱環境下での移動中に道路から受ける輻射熱の身体的影響低減策の開発



公益財団法人
交通工コロジー・モビリティ財団

〒102-0076 東京都千代田区五番町10五番町KUビル3階
TEL:03-3211-6673 FAX:03-3221-6674 Email:jyosei@ecomot.or.jp